

自宅(マンション等)やビルにいる場合		帰宅困難者になった場合	
発災直後～1日後	<div>◆長周期地震動により、未固定の本棚の転倒や、キャスター付きの家具やコピー機等が人に衝突。</div> <div>◆揺れや液状化により、建物が倒壊</div> <div>◆マンションの中高層階ではエレベーターの停止により地上との往復が困難化。</div> <div>◆余震により、本震で脆弱化していた建物の倒壊等により、死傷者が発生。</div> <div>◆自宅等のライフライン(電気・水道・ガス・通信)が不通。</div> <div>◆スーパーなどで、飲食物や生活必需品等が売り切れ、物資の確保が困難化。</div> <div>◆携帯電話の通話につながりにくい。</div> <div>◆応急給水拠点に、多数の住民が殺到し、長蛇の列。</div> <div>◆集合住宅では、水道が供給されていても、排水管等の修理が終了していない場合、トイレ利用が不可。</div> <div></div>	<div>とるべき行動</div> <div>～平時～</div> <div>▼家具(本棚、食器棚、コピー機、キャスター付き家具等)固定による室内被害の防止。</div> <div>▼1週間程度の在宅避難に対応できる備蓄(飲料水、食料、携帯トイレ、生活用品)。</div> <div>▼通信・情報収集手段(モバイルバッテリーや乾電池、ラジオ等)を確保。</div> <div>▼マンション管理組合等は、受水槽・排水設備・非常用電源の点検を定期的を実施。</div> <div>～発災後～</div> <div>▼余震が頻繁に継続している間は、再入室・片付け作業を行い自宅へ戻らない。</div>	◆通信の途絶等により家族の安否が確認できず、徒歩や自転車等で自宅に帰る。

住み慣れた自宅にとどまることが一番です。

日頃からの備えによって、自宅を安全な避難場所にしておきましょう。

多くの人や物によって、自身の安全が脅かされます。

帰宅を急ぐ行動が、かえって命を危険にさらす結果につながります。